59

59期リレーエッセイ

法律家としての第一歩は医事紛争から

会員　**岡部 真勝**

事務所紹介

私が働いているのは，所長をはじめ計6人の弁護士と，3名の事務局員で構成されている医療関係の専門事務所。昨今の医療界に対する強烈な風当たりをまともに受けて，主戦力である2人の兄弁はサイボーグのような毎日をおくっています。そうはいっても，事務所の内はとても明るく，ばからしいほどの忙しさを笑いと勢いで乗り切ってやろうという非常に前向きな雰囲気が大好きです。私自身はというと，登録から3か月が経過し，そろそろ，兄弁たちの忙しさが他人事ではなくなってきたところです。

無知の恥（むちのち）

医療専門を謳う以上，カルテの記載を読み解けることが最低限の条件になるのでしょうが，これが全く読めません。例えば，私の場合，自分の経験則から安易に，「W/C＝トイレ」と思い込んでしまったために，次のような目にあっています。

事の始まりは，最初の誤訳が偶然にも「W/Cへの移動時苦痛の表情あり＝トイレへの移動時苦痛の表情あり」と一見自然な日本語になってしまったことにありました。思い込みの修正は中々難しいものでして，その後は，「W/C（トイレ）訓練」「W/C（トイレ）訓練嫌がる。苦痛の表情あり。」「W/C（トイレ）に乗ってみますと前向きな発言あり」などと，快調に誤訳を進めていきました。

しかしながら，しょせん誤訳は誤訳なわけでして，それなりに意味が通じていたのも偶然の産物に過ぎません。好調に進んでいた誤訳の進行も，「午前中はW/Cで活発に行動。非常に笑顔みられる。」との記載を迎えて，パタッとフリーズ状態になりました。どう考えても，シチュエーション的に不可解です。午前中限定でトイレ内を活発に行動する意味が全く分かりません（しかも非常に笑顔）。

さすがの私も，ここに至って何かがおかしいことを認めざるを得なくなり，略語辞典を買いました（「W/C＝wheel chair＝車いす」だそうです）。

電子カルテの副作用

医療裁判の場合には，得てして証拠が膨大になりがちですが，弁護士は，打ち合わせの度にカルテやレントゲンフィルムを持ち歩きます。10キロから20キロの重荷を背負って，日々エッチラオッチラしているのですから，腰が悲鳴をあげるのも当然で，「ヘルニアのカルテ持ち上げぎっくり腰」なんて笑えない事故も発生することになるわけです（これも労災でしょうか…）。

それでも，旧来の手書きカルテであれば，工夫と体力で何とか対応できるものですが，電子カルテの場合には，ダンボール箱単位の問題になるので，完全にお手上げ状態です。また，今後は加速度的に電子カルテの事件が増えていくでしょうから，運搬だけでなく，保管方法も極めて深刻な問題になっていくことと思います。新件の度に，山のようなカルテが積まれていくことになるわけで，非常に頭の痛い問題です。

結びにかえて

過失の有無とは関係なく，医事紛争ではほぼ全ての案件で患者本人や家族に不幸が訪れており，一つ一つの事件は極めて重く，決して明るい仕事ではありません。また，事案の性質上，激しい感情をぶつけられることも数多く，精神的に疲れ果ててしまうことも度々です。

しかし，法律の専門家として充実した日々を過ごしていることは間違いなく，また，医療という異業種の専門家との交流の日々は，一個人としても，貴重な財産であると感じております。色々と考えることも多い仕事ですが，法律家としての第一歩に医事紛争を選んだことは正解であったと思っております。